

学校法人 聖ヶ丘学園 八幡橋幼稚園

2021年度（令和3年）自己評価結果公表シート

八幡橋幼稚園では、本園の教育理念、教育目標達成に向け、2021年度の学校評価（自己評価）を実施しましたので、以下のとおりご報告します。

【自己評価】

- (1) 対象者：全職員13名
- (2) 実施日：2022年2月28日～3月9日
- (3) 実施方法：職員全体会議において、全職員に学校評価 幼稚園チェックリストを配付し、幼稚園の取組み状況や 自分自身の取組み状況について評価を求めた。

1. 学校の教育目標

事業の目的：本園は、学校教育法第22条及び第23条に基づき、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とします。

教育方針：明るく・素直に・のびのびと主体的に過ごす中で豊かに生きるための基礎力が身につくようにします。また、「非認知能力」「主体的・対話的・深い学び（アクティブ・ラーニング）」を重視します。

教育目標：健康な心と体を自ら育て、様々な人と関わり、何ごとにも好奇心を持って意欲的に取り組む

2. 本年度の学校評価の具体的な目標や計画

園の教育及び教育方針、教育目標のもと、評価項目に従って自己点検、自己評価を実施することにより、職員自らが客観的に自園を見る目を養い、施設の改善、教育及び保育内容の改善に向けた取り組みを目指していく。また、今後職員全体の共通理解を深め、さらによりよい園の運営を図る足掛かりとしたい

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	理由
I 教育目標 ・教育方針	教育目標・教育方針はしっかりと職員が共通の意識を持っていて、いつでも園長はじめ先生方と話し合える場がある。子供たちの中にも“明るく素直にのびのびと”という教育方針は根付いている。また明日も登園を楽しみにできるような保育を心掛けている。今年度も新型コロナウイルス感染予防に努めた。 しかし、オミクロン株の拡大により休園措置を施し、行事の日程変更を行ったが、子どもたちが安心して参加し過ごせるよう、一人ひとりに寄り添う保育を心がけた。在宅勤務では、個々の学びを深め、保育に活かす機会となった。

<p>II 教育課程 ・指導計画</p>	<p>幼稚園教育の目標を達成するため各学年の発達の特徴を踏まえ教育課程に沿った指導計画を立て、子どもたちが興味を持てるような環境設定をしている。子どもの意見を取り入れ、主体性を大切にして思い切り活動できるような保育を心掛けている。コロナ禍において「学校の新しい生活様式」をもとに「やってみたいこと・興味のあること」に応じた活動や行事を工夫して行った。地域との関わりを大切にし、卒園生の方が営む木工所や米屋等に出向き、交流を深めることもできた。</p>
<p>III 教育環境</p>	<p>今年度もコロナ禍により、室内、バス乗車時は密にならない工夫を施した。園外保育は限られたが、クラス単位で園バスに乗り森林公園へ出かけたり、異年齢で近隣にある海の公園や消防署まで徒歩で散歩に出かけた。学園内交流として育和農園でお芋ほりを行い、虫探し、芋のつる等で泥んこになって自然に触れる機会もあった。また、警察署主催の交通安全教室や消防署と合同消火訓練も行った。職員は運動会や発表会で子どもたちが何をやりたいかを見守り、活動が楽しく展開されるために各クラスで話し合いを進め、子ども主体の保育を心掛けている。どこでも子どもたちが思い切りあそび続けることができるように、季節に合った環境づくりとしてコーナーあそびを設けて個別の対応も丁寧に関わった。(毛糸からげ、ろうそく作り、編み物など)</p>
<p>IV 教育の内容・方法</p>	<p>教育課程を基に教育内容や活動を定め、身近なものに興味、関心を持って、何ごとにも自主的に取り組めるように支援している。5領域のねらいや内容、幼児期に育ってほしい10の姿を職員で共有し、保育の質の向上に努めている。絵本や物語などに多く触れ、一人ひとりの個性に合わせて、強制するのではなく“興味を持つ”ということを大切に関わりイメージを広げて楽しめるようにした。また、園庭で野菜や草花を育てたり、虫や小動物を飼育したりすることにより、豊かな思いやりの心が育つよう心掛けている。遊具、教具、自然の素材(羊毛100%の毛糸など)を使用し、遊びを通していろいろなことを経験し学べるよう小さい時から本物に触れ感性の育ちを大切にしている。日々、子ども主体の保育を目指して職員間の意見交換を大切に行っている。</p>
<p>V 教師の役割 ・資質向上</p>	<p>今年度はコロナ禍でもオンライン研修に参加する機会が増え、自己研鑽に努めている。研修会で学んだことについて報告会を設け会議録を作成し情報共有し、資料提出も行っている。</p> <p>研修で学んだことを保育に生かし、子ども一人ひとりの姿を情報交換し、非常勤職員も全園児の様子を理解した上で関わっている。</p> <p>一人ひとりの子どもに専門性のある温かい声かけを行ない、保護者との関係性もとても円満である。</p>
<p>VI 子育て支援</p>	<p>在園児の保護者からの子育て相談については、各家庭の実態を踏まえ、丁寧に</p>

	<p>時間をかけて対応している。担任、時には主幹教諭・園長が窓口となり相談内容に応じた支援をしている。要保護児童については、区子ども家庭支援課・療育センターに情報提供を行い、良好な関係性を築いている。</p> <p>今年度も感染症拡大防止に努め、運動会での未就園児の演目を省略したこと、幼稚園見学はパワーポイントを作成し行ったため、実際の子どもたちの様子を見ていただく機会がなかった。入園前のお子さんや園庭開放は、預かり保育充実のため、実施できていないところに課題があるが、今年度は園長が地域の子育て支援施設（親と子の集いの広場）に参加し交流を深めた。</p> <p>今年度もコロナ禍ということで保護者会や保育参加など行うことができなかったが、iPadを取り入れたことで保護者会は動画配信で行い、また、幼稚園での子どもたちの様子はドキュメンテーションを作成、配信して園の様子を知らせた。今後は保護者と直接話す時間を設けるように努めたい。</p> <p>子育てに不安のある保護者に対しては、個別の面談を設け、気持ちを受け止め親身に対応している。</p>
VII 地域住民や関係機関との連携	<p>地域の高齢者が中心になって活動している掘割川のサケの放流などに積極的に参加しているが直接お年寄りと交流することは難しく課題である。</p> <p>今年度の幼保小連携については新型コロナウイルス感染拡大防止に努めながら、職員は小学校のスタートカリキュラムに参加した。また、就学に向けて各小学校の先生が来園され、子どもの様子を見ていただくなど円滑な関係性が築けている。また、子どもたちは、連携先の小学校校内探検に行き、小学校と接点をもつことができた。また、3月には学校紹介のDVDや手紙をいただき、園側からはお手紙を書くなど幼小の交流ができた。おたのしみ会や人形劇などの行事で地域のお店の方に協力をいただいた。</p>
VIII 運営管理	<p>全職員が就業規則などの規約を確認し、守秘義務は守り質の高い保育を目指している。聖ヶ丘学園本部及び同附属園との連携を密にして業務の効率化と改善に向け、人事労務、財務等の面から分析を行っている。毎月、様々な事態を想定した避難訓練を実施し、園児の安全確保に努めた。安全管理マニュアルを策定し事故等を防止する体制を整えている。事故報告書は各担任が記述し、再発防止の意識を高めている。</p>

4. 本年度の学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	<p>今年度も園の教育及び教育方針、教育目標のもと、自己評価を行うことにより、幼稚園教育活動における各自の保育を振り返る機会を持つことができ。全職員が子ども主体の教育を目指し、コロナ禍の安全、安心な環境の整備、活動の充実等、子どものやりたいことを工夫しことは評価できる。当園は職員間で子ども理解を深めているが、今年</p>

	度は会議等が例年よりも少なかったので、話し合う機会を設けていきたい。子育て支援、地域との連携等は次年度に向けての課題である。次年度以降もコロナ禍における“安心、安全な環境設定を継続していきたい。
--	---

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
教育課程の編成	幼稚園教育要領に基づき、子どもたちの資質、能力にあった計画を立て、今を大切に、何をやりたいのかを即座に察知して、より楽しいあそびを展開していかれるように職員同士で共有を図っていく。今後も円滑な業務遂行のため、ICT化により、ドキュメンテーションや指導計画作成に取り組んでいく。
保育環境の充実	子ども主体の保育を大切に意欲や探求を深められるように環境設定をしていく。また、今後、園庭の大型遊具を撤去するにあたり、それに代わる全身運動を促すための環境について職員で検討していく。
安全管理体制の強化	自然災害や火災等に対して実際の避難をイメージして訓練を毎月行い振り返る。また、バス乗車時の安全管理、避難誘導についても全職員、統一の意識を持てるようにする。園舎施設全体の各箇所における安全点検を担当者中心に定期的に行う。園内の遊具、教具についても同様の徹底を行う。新型コロナ感染症拡大防止の対策は継続する。
教職員の資質向上	職員は自己研鑽や幼稚園内での研修に加え、キャリアアップを目的とする体系化された外部研修の制度等に合わせて、自らの職位や職務に合った能力を身につけるために研修を受け、保育の質の向上に努める。さらに園内での情報交換は常勤・非常勤の区別なく、誰もが共通の意識を持って全園児と向き合えるよう努める。園外研修で学んだことを全職員に報告し、学びを全員のものとする。

学校評価 幼稚園チェックリスト<ステップ1>

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	今後取り組むべき課題

I 教育目標・教育方針

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	園の教育目標や教育方針はわかりやすい。	A
②	園の教育目標が子どもたちの中に生きている。	
③	園の教育目標や方針について、園長や他の先生方と話をする機会がある。	
④	園の教育目標は、幼稚園教育要領の内容に沿ったものになっていると言える。	
⑤	教育方針は、その時々々の幼児に合ったものになるように定期的に見直されている。	
⑥	園の教育目標は、園の創立の理念を生かしている。	

II 教育課程・指導計画

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	園の教育課程は、教育目標を生かして作られている。	A
②	子どもたちの年齢ごとの教育課程がある。	
③	園の教育課程は、園長と先生方が話し合いながら作られている。	
④	園の教育課程は、必要に応じて見直されている。	
⑤	幼児のしたいことや、興味のあることを取り入れられるようになっている。	
⑥	幼児の教育に、地域の自然や施設を活用している。	

III 教育環境

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	活動の環境を作る時には、指導計画を意識している。	A
②	幼児の動きや視線の動きに気を配った構成をしている。	
③	幼児の思いや言動を参考にしながら、保育室の装飾や展示を考えている。	
④	自然や社会とかかわりを持てるような体験（芋掘り、消防署見学など）を取り入れるようにしている。	
⑤	環境の構成について、先生方の中で積極的に意見交換が行われている。	
⑥	年齢の異なる幼児が、触れ合えるような環境構成をしている。	

IV 教育の内容・方法

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	教育内容や方法は、園の教育課程を基にして作られている。	A
②	幼児の家庭での様子を参考にしながら、援助の内容を工夫している。	
③	園で動物を飼ったり植物を育てたりしている。	
④	遊びを通してルールを学んだり、我慢したりといった経験を積めるような工夫をしている。	
⑤	幼児が意欲的に造形活動（描画・製作）をする時間を大切にしている。	
⑥	食べ物についての話をする機会がある。	

V 教師の役割・資質向上

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	一人ひとりの幼児をよく観察するように心がけている。	A
②	すべての幼児に平等に接するように心がけている。	
③	その場にふさわしい言葉遣いができる。	
④	研修に行った先生の研修内容は、全員に紹介される。	
⑤	幼児のモデルとなれるよう気をつけている。	
⑥	保護者との信頼関係ができている。	

VI 子育て支援

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	保護者の子育てについての相談にのっている。	B
②	園や園庭の開放を行っている。	
③	子育て支援の内容について全員で話し合いをしている。	
④	子育て講演、情報提供を行っている。	
⑤	3歳未満の、親子の子育て支援をしている。	
⑥	幼児のことについて相談できる専門機関がある。	

VII 地域住民や関係機関との連携

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	地域の人々と親しく挨拶ができる。	B
②	地域の小学校の行事や公開授業を見学に行く。	
③	地域の方は、園のことに興味を持ったり、園の方針を理解している。	
④	地域のお祭りや伝統行事に参加することがある。	
⑤	保護者だけでなく地域の人にも行事に協力している。	
⑥	地域のお年寄りとの交流を大切にしている。	

VIII 運営管理

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	園児や保護者のことを園の外で話題にしない。	A
②	現金の管理は間違いのないように行っている。	
③	先生方は、災害や事故報告書の作り方を知っている。	
④	保護者の意見はしっかりと聞き、園長に報告している。	
⑤	園の施設の安全点検、衛生管理をしっかりと行っている。	
⑥	園内での役割分担がはっきりと決まっている。	